

Information

| イベント情報 |

これから開催するイベント一覧です。

詳細やお申し込み方法は、

サポートオフィスHP内の「イベント」ページをご確認ください。



8月

8/22(金)
19:00~20:30

まちだのコーディネーター研究会 第2回

対面(定員10名・町田市地域活動サポートオフィス) オンライン
● 川合志織さん ● 宮島徹さん
三ツ目山冒険遊び場 「子どもと遊びを中心に 地域をつなぐコーディネーター」
町田市学校支援センター ゼネラルボランティアコーディネーター 「学校と地域、ボランティア同士をつなぐコーディネーター」

9月

9/4(木)
10:00~17:00

まちカフェ!オープンデー

町田市役所2階 市民協働おうえんルーム(10:00~17:00)
● 10:00~11:00 イベント企画塾～ちらしづくり編
● 13:30~14:30 ワンディおうえん隊説明会!みつけよう地域で私ができること

9/30(火)
10:00~11:30

2026年度日本郵便年賀寄付金助成金説明会

町田市役所2階 市民協働おうえんルーム
● 担当者による年賀寄付助成金説明、質疑応答、個別相談(希望者)
 応募を検討している方
 助成金について知りたい、申請書の書き方のコツが知りたい方

スタッフコラム 番外編

今月号はサポートオフィスで職場体験をした柿生中学校の生徒さんの団体訪問レポートです。
手描きの似顔絵イラストや、かわいい本の形のレイアウトも考えてくださいました!

職
場
体
験

ぼうけんノート

01 NPO法人目と心の健康相談室

目と心の健康相談室、その名の通り、看護師を定年退職された方が、全国の皆さんの不安を取り除いてくれます。病院で解決できなかったそんな目の悩み。年齢層関係なく、幅広いジャンルに対応。とてもフレンドリーで話しやすい優しい先生です。利用者同士のオンライン交流会が月一で開催。同じ思いの人同士で話せるので気持ちが軽くなりとても人気だそうです。



02 つるかわ図書コミュニティ施設(つるぽん)

つるぽんは、新しい可能性が広がる場所を目指しています。元々市立図書館で、今は公共図書館の枠を超えて、これまでにない民間の取り組みとして誕生しました。普通の図書館とはちがい、ゆったりとした音楽が流れている、くつろいだりゆっくりもでき、みんなで交流できる小さな幸せの工夫があるんです。来館者様の心の居場所になってほしいです。



03 鶴川冒険遊びの会(つるぼう)

子どもたちの成功体験や失敗体験を大切にしながら、制限を無くして子どもたちが色々なことに挑戦できる環境を作っています。つるぼうの周りの団地に住んでいる方からも子どもの声が聞こえて安心というなどの、声が上がっています。取材を行った日は、雨でしたが子どもたちが楽しそうに遊んでいるのを見るとこちらも元気をもらいました。



町田市地域活動サポートオフィスでは、地域活動に関する悩みや相談を受け付けています。電話やメール、または直接来所して相談することができます。



MAIL info@machida-support.or.jp

TEL 042-785-4871

月～金 午前9時から午後6時 (毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

最新情報はホームページや各種SNSでも発信しております。



友だち登録募集中



<https://machida-support.or.jp>

まちだづくりのコミュニケーション誌 サポートオフィス通信

HA 一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス 発行

2025 AUG vol.60

公式LINE
始めました

友だち登録で
最新情報配信中!



▲2025年度まちだづくりカレッジ講座の様子。参加者同士の交流が深まるこども本講座の大きな特徴です。

Now | 近況報告 |

まちだづくりカレッジ2025 順調に進んでいます!

6月から開始したまちだづくりカレッジでは、個人向け「ナリワイコース」・団体向け「組織づくりコース」とともに、参加者のみなさんが熱量高くワークに取り組んでいます。

ナリワイコースでは、9名が「自分の好きなこと・得意なこと・すごいと言われること」を振り返り、お互いにフィードバックをしあうことで、新たな魅力や強みを発見するワークに取り組みました。自分のワクワクや想いを大切にして、まちカフェ!で挑戦する「ナリワイ」の準備を進めています。

組織づくりコースでは、5団体が「ビジョン・ミッション・バリュー」や、事業を届けたい相手を具現化する「ペルソナ」の作成などに取り組んでいます。メンバー同士で対話し、活動を俯瞰してみることで、今後の展望を具体的に考えていきます。

「フィードバック」のコツ

カレッジで大切にしているフィードバックとは、気づいたことを伝えること。お互いがもっと良くなるように良かった点や改善点を伝える際のコツをご紹介します。

- よく聞く
- 否定・断定しない
- 自分の意見を率直に伝える
- 相手を応援する気持ちで届ける

「フィードバックを受けたアイデアや意見はすべて取り入れなくてもOK!」という共通認識を持つことで、気楽に伝えたり受け取ったりすることができます。

カレッジ卒業生もたくさん

これまでの参加者は組織づくりコース25団体、ナリワイコース14名! まちだづくりカレッジ参加をきっかけの一つとして協働事業が広がった団体の事例を紹介します。



詳しくは次ページへ

Topics

| 特集 |

\ 事例から学ぶ /

協働プロジェクトの成果と進め方のコツ

町田いぬねこ守り手ネットワーク×自然派くらぶ生活協同組合

町田いぬねこ守り手ネットワーク 立ち上げの背景

町田市での犬猫保護活動は、ほとんどが小規模なグループや個人で行われており、活動に必要な寄付やボランティア募集、啓発活動に手が回らないのが現状です。そのため、支援の輪が広がらず、活動費や治療費も自己負担で活動しているのが現状です。市内では、月に10件近くの保護依頼が寄せられることもあり、そのニーズはますます高まっています。町田いぬねこ守り手ネットワーク(以下 守り手)は、保護活動家や支援者をつなげ、啓発活動を通じて、人と動物が共に安全に幸せに暮らせる社会の実現を目指して設立されました。

協働プロジェクトのはじまり

自然派くらぶは、他団体との連携による地域貢献プログラムを模索している中で、サポートオフィスを通じて守り手と出会い、協働が始まりました。

自然派くらぶの「いのち」「くらし」「地域」という理念と、守り手の目指す社会が一致したこと、また活動立ち上げ期であった守り手と「ともに作り上げられる」と感じたことが、協働を決めた大きな理由です。当初2年間の予定だった協働プロジェクトは、成果を受けて4年間2期に延長され、現在2年目が始まっています。



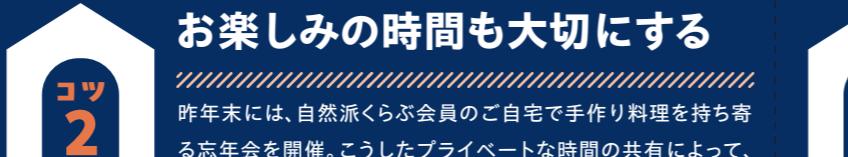
協働のコツ

お互いの強みを活かす



守り手による現場のリアルなニーズに基づく柔軟なアイデアと、自然派くらぶが持つ会員のネットワークや、これまでの組織運営で培った運営力が合わさることで、プロジェクトが一つひとつ形になりました。また、法人として活動する自然派くらぶは、理事会や総会への説明なども必要であり、結果的にそのことがプロジェクトの言語化やタスク管理にもつながりました。

お楽しみの時間も大切にする



昨年末には、自然派くらぶ会員のご自宅で手作り料理を持ち寄る忘年会を開催。こうしたプライベートな時間の共有によって、お互いの価値観への理解が深まったそうです。このような時間も協働を進める上では重要です。実は、自然派くらぶ理事のお二人も会員のご自宅に伺ったのは、初めてのこと。外部と協働することでそれぞれの団体や組織内の関係性も変化するというのも協働の成果の一つかもしれません。

丁寧な対話と理解



「お互い知らなくて当然」という前提で、月1回「お茶会」と称する作戦会議を実行。つい「知っていて当たり前」と思いがちですが、取り組むプロジェクトの背景や現場の実情を共有することが、共通理解を醸成するためには不可欠です。また、それぞれの組織にはそれぞれの事情もあるため、「できること」「できないこと」もきちんと説明し、お互いを理解していくことが重要です。お茶会でもアイデアを発散する役割(守り手)と交通整理や記録をする役割(自然派くらぶ)うまくお互いの強みが出ていたようです。

多くの市民活動団体が取り組む課題は、一つの団体だけでは解決が難しいことも少なくありません。その時に他団体や組織との協働が必要になりますが、協働は、ルール、価値観、文化の違うもの同士が取り組むので、簡単には進みません。今回は、協働でプロジェクトを進めている2団体へのインタビューを通じて協働のコツを探りました。

左から大久保奈緒子さん、菊地あゆみさん(自然派くらぶ)／中野りんこさん、河底有花さん(守り手)▶

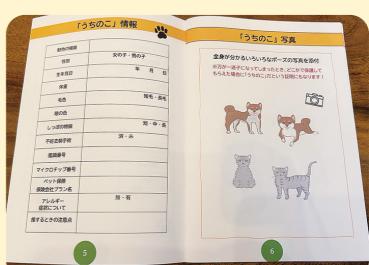


高校生ボランティアの受け入れ

都立小川高校の奉仕活動の授業で43名の高校生が活動に参加。高校生からは「知ることができて良かった」「自分も出来ることはしていきたい」という声がありました。引き続き学生の受け入れをすすめています。

「飼い主証明書ブック」の制作

飼い主証明書ブックを100冊発行しました。購入者から「自分が万が一の時に、この子のことを誰かにちゃんと伝えられるように購入した」「うちの子を守るのは自分!という意識が強くなった」という声がありました。



町田いぬねこ守り手ネットワーク
ホームページ



守り手預かり部
インスタグラム



サポートオフィススタッフから

町田いぬねこ守り手ネットワークは立ち上げ当初は実働2名でしたが、自然派くらぶとの出会いをきっかけに活動が大きく前進し、現在では11名体制に。多くの支えを受けながら、活動の幅も着実に広がっています。インタビューでは、お互いへのリスペクトを感じる場面が多かったのが印象的でした。

